県立広島大学　経営情報学部　経営学科

模擬講義

地域で学ぶ、地域のこと

担当：中島　満大

自己紹介

◇担当科目

社会学、社会学概論、社会調査論、地域課題研究などを担当

ざっくりまとめると・・

地域を調査し、課題を発見し、社会学的に分析すること

→自分で課題を発見し、それを解決していく力

◇フィールドで学ぶ

大学では、大学の中だけで学ぶわけではない。

→実際にその現場（フィールド）に行ってみる。

→現場からものを考えるということ。

今日の講義の内容

今日の講義は、私が一人で初めて調査したところからスタートしたいと思います。下記の内容について話していきます。

（a）フィールドでの「出会い」

（b）フィールドで考えた「小さな地域活性化」

長崎県長崎市野母町

2008年から野母町でフィールドワークを開始。

→漁業や水産加工が中心の町

『野母村絵踏帳』
期間：1766-1871
→過去の人びとの人生を追う。

長崎県長崎市野母町

調査の中の「出会い」（1）

2008年の春休みに初めて野母町に行きました。
　長崎駅で行政センターに勤めるAさんと待ち合わせ。
　　→車で野母を散策中に、偶然、郷土史家Bさんと出会う。

民宿に泊まり、初めての調査にどきどき・わくわく。
　→たくさん話を聞いて、野母のことを調べるぞという意気込み

調査の中の「出会い」（2）

何とかインタビューを終えた後、
　→何も食べてないことに気づく。Aさんに
　　地元の料理屋さんに連れて行ってもらう。

　→そこでCさんと出会う。

この「出会い」が今後の調査へと繋がっていくことに・・。
　→社会調査と「出会い」

調査したい、でもお金がない

ずっと民宿に泊まって調査できるほど、お金がない。
→寝袋で野宿？、長崎駅まで戻って漫画喫茶？。

Bさん：うちの二階に泊まっていいよ。

Cさん：うちの倉庫で寝泊まりすれば。

→最初の調査以外、一度も民宿に泊まらず、二人のお世話に。
→夏休み、春休みごとに、数週間から1ヶ月ほど野母に滞在。

調査の中の「出会い」（3）

◇社会調査と「出会い」
楽しいことも、つらいことも、失敗もたくさんあるけれど・・

調査の中で、いろいろな人や場所と出会うこと
　→それは「魅力」が増していくことにつながる。

出会いから出会いへ
　出会った人たちから、このことならこの人に聞いたらいいよと
　いうふうに、どんどん出会いが拡がっていくことに。

野母と観光

◇日帰りではなく、泊まってもらえるように・・

Aさんも、Bさんも公務員として、野母を観光で盛り上げようとしている（としていた）人たち

→調査を続けているうちに、私もそのことを考えるように。

野母を盛り上げたいという想いと観光

明治日本の産業革命遺産

野母からも見える「軍艦島」が注目を集めるように。

端島（軍艦島）
　端島炭鉱：三菱により開発が進められた海底炭鉱

現在では、産業遺産、文化遺産として、観光客を集めるように。

野母と軍艦島

軍艦島の注目とともに野母でも変化が・・。

「野母崎海の健康村」　→　「Alega軍艦島」へ名称を変更。

「野母崎郷土資料館」　→　「軍艦島資料館」
　→新たなに「長崎市軍艦島資料館」へ移転・リニューアル

小さな地域活性化（1）

2011年に野母にオープンしたレストランがある。
　→洋食がメインだが、刺身定食などもある。

　　※ぶりのポアレ、カルパッチョ、パスタなど。

元々は、内装業をやっていたDさんが地元で開業。
　この建物は、イワシの加工場だったものをリフォーム。

小さな地域活性化（2）

民俗学者柳田国男の考え方：美しき村

「村を美しくする計画などない。

　良い村が自然と美しくなっていくのである。」

良い村＝きちんとしたいい生活をしているところ

※レストランの事例と美しき村

ローカルに考えて、ローカルに行動する。

グローバルに考えて、グローバルに行動する。
グローバルに考えて、ローカルに行動する。

→この2つのスローガンに隠れがちなのが、
「ローカルに考えて、ローカルに行動する」という方針。

地域の課題を、その地域の固有性を重要視し、調査していく。
→地域課題研究の基本となるのでは？